

先人の思いを今に伝える四郎丸小学校の二宮尊徳翁像



四郎丸小学校の二宮尊徳像は建立時のままの「銅像」です。戦時中の供出からまぬがれ、四郎丸小学校の前身である中田小学校四郎丸分校時代から引き継がれているものです。

二宮尊徳翁之像

趣旨

吾ガ壮年会ハ今日吾ガ村ノ窮乏ヲ打開セントシテ、
茲ニ其ノ勤農精神ノ権化タル翁ノ像ヲ建立シ、
朝夕拝シテソノ教ヲ実行ナサントス

四郎丸壮年会員一同（十六名）

会長 伊深綱吉

昭和拾貳年九月

後援者

甲田九二治 殿

二宮尊徳像を建立したときの趣意書（建立の意気込みが伝わります。）

尊徳・一口メモ

第二次世界大戦中は、二宮金次郎（尊徳）の銅像は全国各地の学校にあり、軍国主義のシンボルのよう終身教育に利用された。そのため戦後、敬遠される傾向にあった。・・・（途中割愛）

その後、二宮金次郎への見方と評価が変わった。金次郎は幼いころからまきを採ったりしばを刈ったりして働き、その合間に一生懸命勉強して、多くの村の復興に力を尽くした。そのことが道徳教育の手本として高く評価されるようになった。

（筑波大学名誉教授 永岡 順「内外教育」時事通信社 2007年4月27日掲載）